

作品解説

◆フランツ・シューベルト(1797-1828)：弦楽四重奏曲第12番 八短調《四重奏断章》, D 703 (1820)

代表作のひとつとなった交響曲第7番 口短調《未完成》を筆頭に、シューベルトには書きかけで残された作品が数多く存在します。シューベルトは全4楽章での完成を前提に作曲を進めながらも、スケッチ段階で止まってしまう場合や、どこかの楽章の途中（未完成交響曲の場合は第3楽章）で筆が止まってしまう、そのまま放置されてしまう場合が多かったようです。4年振りに弦楽四重奏曲に挑んだ本作においては、調性の構造が定形から外れる大胆な試みがみられる第1楽章こそ完成したものの、第2楽章は41小節までで途切れています。第1楽章全体を支配するのが、冒頭から順々に奏されるジグザグと動く第1主題です。この音の動きは、次に登場する明るく叙情的な旋律（第2主題もどき）が歌われている間も第2ヴァイオリンが密かに続けていたり、至るところに隠れ潜んでいます。提示部は短調（八短調）ではじまると平行調（変ホ長調）で終わるのがお約束なのですが、この曲では属調（ト長調）に転じます。展開部を経た後は、前述した第2主題もどきから再現部がはじまるため、冒頭の第1主題は、最後の短い終結部まで明確に再現されません。

◆ヨハネス・ブラームス(1833-1897)：ピアノ五重奏曲 へ短調，作品34 (1862/64)

1860年に弦楽六重奏曲第1番を書いたブラームスは弦楽四重奏へのステップとして、今度は2つのヴァイオリン、ヴィオラ、2つのチェロによる弦楽五重奏を作曲していました。しかし試演した親友ヨアヒムからは辛口の反応。今度は2台ピアノに編曲するも信頼するクララ・シューマンから厳しい意見を突きつけられます。結局、双方のアイデアを組み合わせる本作は、ピアノ五重奏曲に編み直されました。第1楽章は、まるで交響曲のような重厚長大な音楽で、性格の異なる旋律が組み合わせながらドラマを作り上げていきます。緩徐楽章となる第2楽章では三部形式を基調にしつつも、伏線を張ることで後半の盛り上がり巧みに演出。スケルツォの第3楽章はコントラストを際立たせた明晰な音楽です。音量、長調短調、音色…様々な要素で対比を作り、シャープな音楽を形成しています。不安定な序奏ではじまる第4楽章では、これまた様々な性格の旋律が入り乱れながら音楽を進めていきますが、ラストで大幅にテンポが上がり、息もつかない展開をみせます。
(小室敬幸)



Music Dialogue デイスカバリー・シリーズ 2021-2022 Vol.3

@加賀町ホール

2021年12月17日（金）開演 19:00

プログラム

◆曲目 シューベルト：弦楽四重奏曲 第12番《四重奏断章》 八短調 D.703

Franz Schubert: String Quartet No. 12 in C minor "Quartettsatz", D 703

1. Allegro assai

出演 大塚百合菜 (Vn.) 福田麻子 (Vn.)
大山平一郎 (Vla.) 加藤文枝 (Vc.)

◆曲目 ヨハネス・ブラームス：ピアノ五重奏曲 へ短調，作品34

Johannes Brahms: Piano Quintet in F minor, Op. 34

1. Allegro non troppo 2. Andante, un poco Adagio
3. Scherzo. Allegro - Trio 4. Finale. Poco sostenuto - Allegro non troppo

出演 平間今日志郎 (Pf.) 大塚百合菜 (Vn.) 福田麻子 (Vn.)
大山平一郎 (Vla.) 加藤文枝 (Vc.)

◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法がQRコードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「761133」をご入力ください。



Music Dialogue へのご支援を通して、ぜひ次の世代を担う演奏家たちの成長を応援していただければ幸いです！
シンカブル（以下のQRコード）にて、単発や毎月の継続的なご寄付を受け付けております。



[主催] 一般社団法人 Music Dialogue
[協力] 日本音楽財団（日本財団助成事業）
ARTS for the Future! 補助事業



演奏者プロフィール



平間 今日志郎 Kyosiro HIRAMA [ピアノ]

1998年生まれ、大阪府出身。仙台国際音楽コンクール第5位、全日本学生音楽コンクール全国大会高校の部第2位及び横浜市民賞、PTNAピアノコンペティション全国決勝大会F級金賞、Jr.G級金賞、松方ホール奨励賞など多くのコンクールで入賞。シャネル・ピグマリオン・デイズ 2020/2021 参加アーティスト。2017～2019年度ヤマハ音楽振興会音楽奨学支援奨学生。パーク大学（米・ミズーリ州）卒業。奨学生として同大学院在学中。スタニスラフ・ユデニッチ、クラウディオ・ツァレス、上野真の各氏に師事。



大塚 百合菜 Yurina OTSUKA [ヴァイオリン]

桐朋学園女子高等学校を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。その後渡独し、リュベック音楽大学大学院修了、演奏家課程を経てドイツ国家演奏家資格取得。これまでに佐藤明美、辰巳明子、トーマス・ブランディス、ダニエル・ゼベックの各氏に師事。第59全日本学生音楽コンクール第1位。第6回シュポア国際コンクール(ドイツ)特別賞。東京フィルハーモニーオーケストラ、リュベックフィルハーモニーオーケストラ等と共演。CHANEL PYGMALION DAYS 参加アーティスト。2019年度紀尾井ホール管弦楽団シーズンメンバー。



福田 麻子 Asako FUKUDA [ヴァイオリン]

第19回東京音楽コンクール弦楽器部門第1位、第87回日本音楽コンクール第3位。CHANEL Pigmarion Days2022 参加アーティスト。明治安田生命 QOL 文化財団、青山音楽財団、宗次エンジェル基金日本演奏連盟、守谷育英会奨学生。紀尾井ホール室内管弦楽団シーズンメンバー、サントリーホール室内楽アカデミー第6期生。東京音楽大学、同大学院修士課程を首席で卒業。現在同大学院博士後期課程1年に特別特待奨学生として在学中。これまでに、小栗まち絵、大谷康子、原田幸一郎、藤原浜雄、玉井菜採の各氏に師事。



大山 平一郎 Heiichiro OHYAMA [ヴィオラ]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥル・ブー、ミシヤ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987年にブレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。



加藤 文枝 Fumie KATO [チェロ]

京都市出身。2006年バリエコルノルマル音楽院に給付生として留学。2010年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻卒業。学内にて、安宅賞、アカンサス賞、三菱地所賞受賞。2010・2011年サントリーホール室内楽アカデミー第1期生。2014年東京芸術大学大学院修士課程修了、アカンサス音楽賞受賞。パリ市立音楽院を満場一致の首席で卒業。第8回ピバホールチェロコンクール第1位。第7・8回東京音楽コンクール弦楽部門第2位。FLAME国際コンクール第3位。平成23年度京都市芸術文化特別奨励者。これまでに、故 杉山實、ドナルド・リッチャー、アラン・ムニエ、河野文昭、ラファエル・ビドウの各氏に師事。また、室内楽を岡山潔、松原勝也、P.ルコール、E.ルサージュ、P.メイエの各氏に師事。財団法人地域創造による公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。Music Dialogue アーティスト。

◇次回公演のお知らせ◇Music Dialogue ディスカバリーシリーズ 2021-22 Vol.4

- 本公演： 2022年3月4日(金) 19:00 開演 本公演
【会場】 めぐるパーシモンホール 小ホール（都立大学駅より徒歩7分）
<https://bit.ly/3Ijp74K>
- 字幕解説付き公開リハーサル： 2022年3月1日(火) 19:00 開始
【会場】 中目黒 GT プラザホール（中目黒駅南口よりすぐ）
<https://bit.ly/30r5DAE>
【曲目】 クララ・シューマン ピアノ三重奏曲 作品17
ブラームス ピアノ四重奏曲 八短調 作品60
【出演】 酒井有彩（ピアノ）、小栗まち絵（ヴァイオリン）、大山平一郎（ヴィオラ）、辻本玲（チェロ）

※チケット販売は、12月15日から開始しております。

本公演と公開リハーサルでそれぞれ販売サイトが異なります。

上記QRコードやMusic Dialogue ホームページよりご確認お願い致します。

